

HTEC TIMES

Honda Technical College kansai

学校法人ホンダ学園
ホンダ テクニカル カレッジ 関西

発行責任者
校長 滝澤 信彦

〒589-0012 大阪府大阪狭山市東くみの木2丁目1937番地の1
TEL:072-366-9011 FAX:072-360-2230

ホームページ・ケータイ サイト
http://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/

QRコード対応
ケータイで
簡単アクセス!



浜田理事長 トップトーク

~Hondaの環境負荷軽減の取組み~

1月12日(水)毎年開催しているトップトークに本田技研工業(株)専務取締役であり本校の理事長でもあります浜田 昭雄さんにお話をいただきました。



本田技研工業株式会社
専務取締役 浜田 昭雄

今日は「ホンダの環境負荷軽減の取組み」というテーマでお話をさせていただきます。地球温暖化対策として二酸化炭素をいかにして減らしていくか、世界的に環境負荷軽減というエコロジーの言葉を軸に様々な活動がなされています。

私たちの自動車産業も新しい時代を迎えているわけで、例えば先進国ではコンパクトな低燃費車が主流になりつつあります。

大きな流れとしては、ハイブリッド、燃料電池車、加えてこれは環境負荷軽減という指向ではありませんが、経済発展が著しいアジア諸国でのニーズが高い低価格車という3つの流れがあり、我々も世界中の自動車メーカーとそろってこの領域で闘っています。具体的には、ホンダは

1992年に「ホンダ環境宣言」をしており、1997年から2002年にかけて全ての二輪車を2ストロークから4ストロークに転換しました。

また、エネルギー効率が極めて良い家庭用コージェネシステム「エコウィル」(平成15年度「省エネ大賞」・平成16年度「省エネ大賞」・会長賞)受賞、平成16年度「エコプロダクツ大賞」・推進協議会会長賞(受賞)をガソリン車と一緒に開発販売してまいりますが、ここでは自動車にフォーカスしてお話を進めます。

包括的な目標は「環境技術ナンバワン」を目指すことで、内燃機関とハイブリッドを含むトランスミッションを重要な技術と考え、その改良・開発に努めているほか、軽量化、走行抵抗低減、省エネ車体技術の進化に取り組んでいます。

さらに、生産現場の体質改善にも積極的に、高効率の生産体制の構築を進め、リードタイムの30%削減、CO2排出量の20%削減など環境負荷の少ない工場を実現させています。

そして辿り着いたのが、ホンダの2020年ビジョン「お客様の喜びを最大化」する商品を開く、安く、低炭素で実現する。です。環境負荷の最も小さな製品を環境負荷の最も小さな工場から世界に。ホンダはこれから、先進国では技術革新で先頭に立ち、新興国では低価格車でシェア拡大を目指します。

(抜粋・要約)



自動車整備科 2年生 三宅 純平 君

Q.生産技術の面でのCO2削減を目指す事によって、車両の生産コストが上がり、車が売れないのでは？

A.いい質問ですね。我々も2,3年前、その事について議論しました。車を生産するにはには多くの行程があります。実はCO2を減らすには製造ラインの長さや時間を短くする事が一番なんです。技術開発への初期投資は増えますが、使う材料や工程が少なくなる事によって結果としてコストは安くなります。そしてCO2発生も抑えることができます。CO2削減を目指す事により、大きな成果を得られると考えています。

ホンダファーストエイド&チャイルドシート取付講習



ホンダファーストエイドではAEDの使用法や心肺蘇生法を学ぶ



インストラクターの指導のもとチャイルドシートの取付を学ぶ

1月17日(水)19日の3日間、鈴鹿サーキット交通安全センターから3名のインストラクターを迎え、自動車整備科と一級自動車整備研究科の1年生を対象にホンダファーストエイドとチャイルドシートの取付講習を実施しました。

この講習はホンダが社会貢献活動として取り組んでいる認定資格「ホンダファーストエイド救護員」を取得する事を目的に実施されています。事故現場では119番から救急車が着くまでのわずかな時間ですが、けが人の生死を分ける重要な時間であり、ファーストエイドがとても重要なカギとなります。

本校では、在学中に知識だけでなく、体で覚えるための実技講習を行うことで、万が一の際、応急手当の対応が出来る事を目指しています。また、同時に「ホンダ・セーフティコーデイネーター」の取得を目的としてチャイルドシート取付講習を開催し、正しく安全に取付ける方法も学んでいます。

校長就退任の挨拶



校長 滝澤 信彦

校長就任の挨拶

12月1日付けで校長に就任しました滝澤です。昭和53年にHondaに入社後二輪研究所で二輪車開発を基本に、二・四・汎・基礎研究所を横串で見る業務やインド研究所ではインド人アソシエイトと共にインド専用車の企画立案・現地開発を行ってきました。今回ホンダテクニカルカレッジ関西に赴任し、これまでの経験には無い教育の世界には少々戸惑いを覚えたものの、本学園の創始者である本田宗一郎の教え「建学の精神」と育成方針に示される「マナー・マインドを磨く」、「実践力第一の技術力」、「社会活動への理解と行動力を育む」の3つ柱を基本に先輩諸氏の築き上げてきた関西校を学生はもとより教職員の皆さんと1つになりベクトルを合わせ、ワンチームとしてさらに大きく飛躍させていきたいと考えています。

その為に私も全力で頑張っておりますが、皆様のご理解とご協力無しには何事も出来ません、是非ご支援をよろしくお願い致します。

前校長退任の挨拶



前校長 村上 洋

アメリカの研究所から直接関西校に赴任し、教育という世界に飛び込み「物づくりから人づくり」への大変換、おまけに赴任早々麻疹の流行で関西で初めての休校騒ぎで始まった学園生活でしたが本田宗一郎が創設した学校であることもあり「Hondaの考え方」を自分の経験を踏まえ整理できたことは非常に有意義でしたし、学生達と接する中で多くのことを学ばしてもらいました。今後は学園で培ったことを生かして古巣2輪研究所に戻り人材育成に寄与して行きたいと考えてます、4年間色々お世話になりました。



就職活動が本格的にスタート! 「ホンダ学園賛助会企業セミナー」開催!



12月16日(木)、自動車整備科1年生、一級自動車整備研究科3年生、自動車研究開発科2年生の来年度卒業見込みの学生を対象にホンダ学園賛助会企業セミナーを開催いたしました。本田技研工業(株)やHonda系企業で構成する「ホンダ学園賛助会企業」のご支援の基、学生たちが各企業様の経営方針や理念について説明を受け具体的な就職情報を得ることのできる絶好の機会として毎年行っております。

今年はディーラー、開発、製造系企業など全国から52社の企業様にご参加いただきました。学生たちは志望する企業様のブースで熱心に話を聴いたりメモを取りながら、疑問点を質問したりして有意義な時間を過ごしました。厳しい就職戦線ですが、志望する企業への内定獲得に向かっていきます。